

# 筑波のかえる



高次脳機能障害友の会・いばらき

2021年 ～～ 秋号 ～～ 第52号



高次脳機能障害友の会・いばらき

〒305-0817

茨城県つくば市研究学園4-13-8

TEL 080-5901-9979

E-mail kojinouibaraki@yahoo.co.jp

H.P <http://nosonsohoibaraki.sunnyday.jp/>



## 《52号内容一覧》

はじめに	1
役員会から	2
神栖・県南の広場	3
県北の広場	4
がんばってる人 <sup>⑮</sup> （大貫智美さん）	6
発信する当事者の皆さん	7
関係機関訪問	
つくば市社会福祉協議会	8
就労支援施設「オハナ」	9
お知らせ・編集後記	10

今回の表紙の写真は、土浦市にお住いの土屋めぐみさんの作品です。  
めぐみさんが以前通っていた自立支援センターで制作した籐手芸と  
今、マイブームになっている「アクアビーズ」です。

きっかけは、妹さんからビーズをプレゼントされたことでした。色の  
配列や細かな作業の難しさも、ピンセットを使いながら持ち前の集中  
力でこなしています。ビーズを買い足しながら、好きなキャラクターを  
作っています。皆さんもいかがですか？



## はじめに

### カウンセリングのこころ

高次脳機能障害友の会いばらき 顧問・小原昌之  
( 茨城カウンセリングセンター 副理事長・カウンセラー )

友の会の皆さん、こんにちは。本年5月30日の総会より友の会の皆さまに顧問としてお認めいただきました。改めて、どうぞよろしくお願いいたします。

県の専門機関のリーダーの立場から、一転して当事者・家族の立場の皆さんの後押しや応援、相談役をさせていただく立場になり不思議な感じもあります。けれども、社会的立場はさておいて、心の面では、平成27年(2015年)にリハビリテーションセンターに再赴任した時に、友の会の皆さまと初顔合わせをした時から、なんら変わらない気持ちの流れが続いております。

さて、家族交流室で、はじめて参加される方がいらした時の役員の皆さんの態度には常々、カウンセリングの心が息づいていると感じていました。カウンセリングの心は専門家よりも市井の人が持っている場合が多いのは何故だろうと考えていた時期がありました。今、そのカウンセリングの専門機関に里帰りして再確認できたことは、カウンセリングの心はもともと誰の中にもあるのですが、日常的な目的意識や専門知識、噂話、偏見、思い込み、勘違いの自信などで、すぐに歪み、汚れ、濁るようです。素直で純粋な子供にはカウンセリングの心が生き生き輝いています。コラージュを無心、夢中になって作り、みんなでそれぞれの作品をいいなあと味わっている時、レクリエーションで当事者の皆さんが支援者の皆さんを受け入れている時、当事者の会で、一人の話を真剣に聴き入っている時、いずれの時にもカウンセリングの心が息づいています。



総会の時に滝沢会長より、「あらためてのご縁ができたことで、カウンセリングを学んでいきたいです」との言葉を伺った時に、私も同様に皆さんとカウンセリングの心を何度でも学び直していきたいと思いました。

水戸駅南にあるチョコレート色の産業会館というビルの最上階にカウンセリングセンターがあります。日々、県内から多くの方々が相談にお見えになります。こちらから職場に伺ったり、センターで研修も行ったたり、出向いて行ったたりしています。これまで、カウンセリングの対象を限定したり、カウンセリングそのものを業務の中でできなかつたりした時もありましたが、今はそのことだけをいねいに展開している日々を過ごしています。作家の白洲正子さんが六十の手習いというのは新しいことを学ぶことではなく、すでに知っている、身につけていることをもう一度学び直すこととおっしゃっていて、感激しました。私の今の実感でもあります。

## 役員会から

### 令和3年度 高次脳機能障害友の会・いばらき 事業予定

項目 月	会 員	役 員 会	そ の 他
9月	10日 家族会交流室 (中止) 17日 県北家族の集い 18日 県南集会 22日 神栖集会	14日 役員会	中旬 会報誌発行 25日 リハビリ講習会 (オンライン)
10月	8日 家族会交流室 10日 当事者会 27日 神栖集会 未定 県北集会	19日 役員会	7日 福祉課・支援センター・ 役員との懇談会
11月	12日 家族会交流室 19日 県北集会 24日 神栖集会		未定 要望書提出
12月	10日 家族会交流室 未定 県北集会 24日 神栖集会 未定 当事者会	21日 役員会	中旬 会報誌発行

## 役員会報告

令和3年6月22日

議事(1) 令和3年度総会を終えて

- ・議事に関して
- ・当事者活動に関して

(2) 家族会交流室について

(3) 作業療法士会土浦医療圏との交流会

(4) 私のことファイルについて



## 家族会交流室からの報告

令和3年6月17日

相談者1名 会員5名

支援センター⇒高橋副センター長

令和3年7月9日

相談者2組 会員5名

支援センター⇒野口支援CN



※CNは、コーディネーター (Coordinator) の略称です。

## 神栖の広場

家族や施設の方が集まった席で、事例検討会のことが話題になりました。色々な研修会に参加しても、高次脳機能障害の事例についてはなかなか出会えないのが実情です。そこで話に出たのが以前会員だった方のことです。事故後大変な生活を送り、数年前に高次脳機能障害にたどりつきました。若く前向きで何にでも挑戦しようとする姿勢は私たちにも刺激になりました。最近、思いがけず仕事先でがんばっている様子を聞くことができ、嬉しかったと同時に各機関とつながり続けることは当事者にとって大切と感じました。



今回は間に合わなかったけれど、次回の研修会に備えセンターのコーディネーターを交えて高次脳機能障害者の実情を伝えられるような話し合いの場にしてゆきたいと思っています。さて、私は夏号で～家族会の存在はとても大きい～と書きましたが、皆さんにとってはどうでしょうか？役員の顔ぶれが変わらないのでマンネリ化していませんか？新鮮なご意見、アイデアお待ちしております。

《神栖集会の報告》6月23日 会員4名 まつぼっくり1名

7月23日 会員3名

(御所脇)

## 県南の広場

県南では、会発足当初から、当事者と家族が、楽しいひとときを過ごすことを目的に、様々な集会を行ってきました。なかでも好評だったのが、コラージュ教室。クリスマス、食材の買い物を含めた調理会食、ボーリング大会、カラオケ大会。楽しい思い出が目に見えます。



ところが、昨年より、このような楽しい計画が、なかなか行えなくなってしまいました。今年度も、なんとかコラージュ教室が1回開催できたものの、これから先は不透明なままです。

でも、私たちも負けてはいられません。この時期を有効にとらえ、これから先どんなことを計画するか考えていきたいと思います。

そこで、提案です。

今回の集会は、賛助会員の風見さんが、趣味のクラフトテープの手芸をお世話して下さることになりましたが、皆さんの中で、一緒にお手伝いして下さる方、いらっしゃいませんか？趣味を生かしたこと、得意なこと、何かアイデアがある人、また、一緒に参加して下さるだけでも、大歓迎です。こんな時期だからこそ、みんなで知恵を出し合っていけたらと思います。お助けマン大募集中！！です。

参加して下さる方、是非ご連絡ください。お待ちしております。

連絡先 県南担当 浅野美津子 090-2536-2718

## 県北の広場

8月に入り、県内のコロナ感染者数が増加し、「お知らせ」でご案内した第3回県北集会は、中止することとなりました。「ポッチャ」を楽しみたいと計画していましたが、やむを得ません。また楽しく集える日を楽しみにしたいと思います。

今回の会報では、6月に行われた第2回県北集会、7月に行われた第2回県北集会 家族の集いの報告を致します。

### 令和3年度 第2回県北集会 令和3年6月22日(日)

場 所 : 水戸市福祉ボランティア会館 大研修室

内 容 : クラフト 「アルバムの表紙を作ろう！」

“シールやマスキングテープを使って”

参加者 : 13名(当事者2名、家族5名、支援者6名)

今回はシールやマスキングテープを使って、アルバムの表紙を飾り、「マイ・アルバム」を作りました。

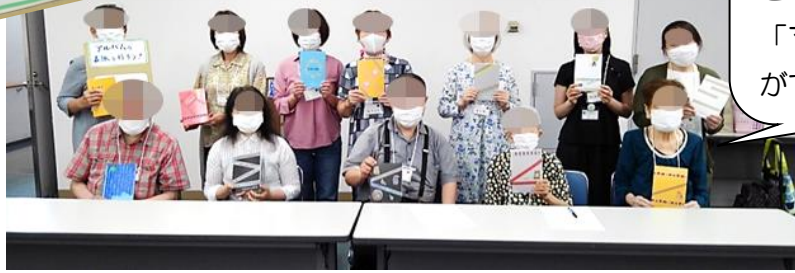
マスキングテープは、もともとは塗装に使う養生テープで粘着性が弱く、貼ってもはがしやすい、手で切れるという特性があります。近年では、様々な色や柄があって、文房具や画材として使われるようになりました。

今回の参加者のほとんどがマスキングテープは初めてでしたが、思い思いの柄を選び、すてきな作品ができました。

感染症対策として1時間の集会でしたが、皆さん裏表紙も飾り、久しぶりの方とも交流し、おわりの会では体操で身体をほぐし、ほっこり楽しい時間を過ごしました。



アルバムの  
表紙を作ろう！



困ったらヘルプ  
できる人が助っ人  
とってもすてきな  
「マイ・アルバム」  
ができました！

感想カードより

#### ◎楽しかったこと

- アルバムの表紙作りをテープやシールを貼って作れました！
- おわりの会の体操も難しくなく身体を動かすことができました。
- アルバムの飾り付け作業。もうとっくに忘れていた子供の頃のシールはり、何も考えずにテープをはる…一人ではなかなかできませんが楽しかったです。

#### ◎嬉しかったこと

- 久しぶりに友達に会えたこと
- 困難な中、工夫して開いて頂いて感謝しています。

#### ◎その他

- スタッフと家族の皆さんが手伝ってくれてよかった ありがとう！！
- 一緒に出掛けられる機会も、安心できる場所も殆どない状況なので、本人も家族にとっても友の会に参加できるのはありがたいと思っています。
- マスキングテープでの作業は、集中力だけでなく、考えて実施するというハードルがありますが、スムーズに製作に取り組み、素敵な作品ができました。個性的なセンスあふれる作品に感銘いたしました。

#### 県北集会では…

毎回集会写真を撮って、持ち帰ります。  
(現在はコロナ禍の為、後日郵送)  
写真は思い出。くり返し見ることができます。記憶が苦手になっても、記憶の手だてになるかもしれません。思い出すきっかけ、家族との会話のきっかけになったり…  
今回の集合写真は「マイ・アルバム」に納められたかな？

#### 第2回家族の集い報告

7月16日(金) 水戸市福祉ボランティア会館 小研修室で行いました。  
〈参加者6名(家族2名、支援者4名)〉  
家族の具体的な経験談やアドバイス、高次脳機能障害支援センターの高橋さんのお話等々、有意義な時間を過ごしました。

## 検査なら私に任せて!!

常陸大宮市西塩子 大貫 智美さん

緑に囲まれた自然豊かな地域に廃校を利用した「おさだのもり」という福祉施設があります。その1室で智美さんにお会いしました。お母様と管理者の方にも同席して頂きました。作業を中断して取材に応じてくださったのでエプロン姿でしたが、それがとても似合っていました。



◇**高校生の時**、登校途中にバイクで交通事故に遭い、生死をさ迷うほどの大けがを負いました。意識は戻りましたが右半身のマヒと高次脳機能障害が残りました。しかし、本人や家族の努力はもちろん、学校側の理解もあり、智美さんは通っていた高校に復学することができました。学校生活は車いすでしたが、階段の上り下り等同級生が皆で助けてくれたので修学旅行にも行けました。そして無事卒業も果たしました。

◇**「おさだのもり」での主な仕事**は常陸大宮市の工場で生産される部品の点検と袋詰めです。智美さんはとても重要な「点検」の仕事を任されていました。手の平に載るくらいの小さな部品に傷や汚れがないかをチェックするのですが、それが驚くほど速いのです。その上ミスはほとんどありません。他にも10数人の方が働いていますが、智美さんはとても面倒見が良く姉御肌で、皆からとても頼りにされています。

◇**智美さんの好きな創作活動**で「おそうじクロス」を作っています。左手だけで器用に縫い上げる作品はとても素敵で、使うのが勿体ないような作品でした。



◇**智美さんの毎日**はとても規則正しいです。5時に起床し、掃除、洗濯をします。テレビで天気の確認と、今日の準備をし、朝食をとって「おさだのもり」へ。帰宅後は、洗濯物を取り込んでたたみます。モップかけもします。入浴、夕食などを済ませ、8時には自分の部屋に…。そして、晴天の週末には必ず布団を干します。羨ましくなるような生活習慣ですが、これらはリハビリで入所していた国リハや県リハで身についた習慣なのだそうです。

お会いしたのは短時間でしたが、智美さんは明るくてすがすがしい女性でした。智美さんにとって良いと思われる事は、労を惜しまず全て経験させてきたというお母様の行動力と、それに応えてきた智美さんの努力の成果が、今の生活に現れていると感じました。自分で働いたお金で買い物をするのが何よりの楽しみだそうです。また、智美さんは靴下に穴が空いたら自分で繕って履くとのこと。脱帽です。



## 発信する当事者のみなさん

当会会員の当事者の方々が、自分の体験を通して高次脳機能障害の理解を求める様々な活動を行っています。当事者からの言葉には、私達にも知り得ないことはたくさん！ぜひご覧になってみて下さい。

### 〈 藤井 佳一さん 〉

#### 高次脳機能障害を伝えたい 「ケイイチチャンネル」と検索！

事故に遭った時のことや、自分を心配してくれた家族の話などを仲間や家族と一緒に語っています。周りからはなかなか理解できない障がいのこともぶっちゃけトークしています。当事者でないと言れない「ああ、そうだったんだね！」という話を聞いてみて下さい。



ユーチューブ・アドレス⇒



### 〈 小川 伸一さん 〉

小川さんが作った冊子の中で茨城新聞に取材を受けました。脳科学者ジルボルトテイラーさんの言葉を、小川さんが解りやすく伝えてくれています。そして、この記事はヤフーニュースにも！活動の場は他にも広がっています。ぜひご覧になってみてください！

### 〈 石崎 美香さん 〉

ご自身も当事者というライター鈴木大介さんの取材を受け、インタビューに答えました。石崎さんにとって、仕事のキャリアをうまく使えなくなった事よりも「病前のコミュニケーション力」を失ったことが最も残念に思っていることだそうです。当事者にとって病前のコミュニケーション力を失うことは、身体の一部を欠損する以上に不自由感を伴うことを理解してほしいと、鈴木大介さんの言葉が添えられていました。

2021年(令和3年)8月14日 土曜日

## 当事者の思い 伝えたい

冊子を手にする小川伸一さん。黒字部分が小川さんの行った解説

### 高次脳機能障害

高次脳機能障害とは、脳の特定の領域に損傷が生じたことにより、記憶や学習、言語、計算、読解などの能力が低下する状態を指します。小川さんは、事故による高次脳機能障害で、読解力や計算力が低下し、日常生活に大きな支障をきたしています。

#### つくばの小川さん執筆

小川さんは事故後、元々の読解力や計算力が低下し、日常生活に大きな支障をきたしています。この経験を、中身のタイトルの通り「高次脳機能障害を伝えたい」として、読者への理解を促すことを目指しています。

### 実体験踏まえ独自解釈

小川さんは、事故による高次脳機能障害で、読解力や計算力が低下し、日常生活に大きな支障をきたしています。この経験を、中身のタイトルの通り「高次脳機能障害を伝えたい」として、読者への理解を促すことを目指しています。

【テーマ別ホームページ】  
<https://ryujin.fuujinraiin.com/>

【出演別ホームページ】  
<https://fuujinraiin.com/>

冊子を手にする小川伸一さん。黒字部分が小川さんの行った解説

「脳に何かがあったとき」5月号  
～ その後の仕事と現実 ～  
高次脳機能障害や失語症のある方の「はたらく」知恵  
team 脳コワさん 2021年5月発行

会員情報誌 「脳に何かがあったとき」5月号  
～ その後の仕事と現実 ～  
高次脳機能障害や失語症のある方の「はたらく」知恵  
team 脳コワさん 2021年5月発行



## 関係機関訪問⑧

### つくば市社会福祉協議会

住所 つくば市筑穂1-10-4

電話 029-879-5500



◇つくば市社協は、どっしりとした赤レンガの建物の大穂庁舎内にありました。お話は生活支援室：在宅福祉係の大塚俊実さんと苅谷由紀子さんに伺いました。

◎つくば市は人口も多く面積も広いため、日常生活圏域が7地区に分けられています。社協ではその7圏域ごとに「生活支援コーディネーター」として社協職員を1名ずつ配置し、各地域の特性を生かした活動に取り組んでいます。また、地域としてもかなり広いので大穂本部の他に北、南、中央の3支所を設け、市民の方々の来庁等の負担を少なくしています。

◎大塚さんは「居宅介護支援事業所」の管理者としてケアマネージャーやヘルパーの取りまとめや連絡調整等、責任あるお仕事をされています。また、大塚さんご自身もケアマネージャーの資格をお持ちなので、ケアプランの作成や、介護相談などにも対応されるそうです。社協が居宅介護支援事業所を運営しているのはとても珍しく、つくば市の特色と言えると思います。



◎苅谷さんは相談支援専門員として、お年寄りに限らず障害のある方々の相談にも対応されています。現在苅谷さんが支援をしている方々の中に高次脳機能障害を持つ若い女性がお二人いるそうです。県の支援センターとも連携を取りながら相談支援をしているとのことですが、外からは見えにくく、障害の度合いも人によって違うので、対応に苦慮しているとのことでした。



つくば市のような大きな市には、高次脳機能障害の方もおそらく大勢いると思われます。しかし、関わりが少ないためお二人にもよくわからないのが現状だそうです。ケアマネの研修会などで「高次脳機能障害」をテーマにぜひ勉強をしてみたいと話されました。

## 関係機関訪問⑨

### 就労支援施設「オハナ」

※就労移行支援・就労継続支援 B 型

住所 つくば市並木 3-26-14

電話 029-846-3649



◇学園東大通りから少し入った閑静な住

宅街に就労支援施設「オハナ」がありました。

すっきりとしたグレーの建物に入ると、まだ新しい香りがしました。(今年の 5 月に開所) 笑顔が素敵な代表の土井亜季さんにお話を伺いました。因みに「オハナ」という名前は、ハワイ語の「家族」を意味する言葉だそうです。



◎職員は 5 名で全員が女性です。定員は B 型が 14 名、就労移行が 6 名で、現在は 7 名の方が通われています。つくば市の方もいますが阿見町から通われている方もいます。送迎の範囲は、つくば市、土浦市、阿見町としていますが、それ以外の場合はご相談にのります。



◎就労内容としては、B 型では、ペンの袋入れや箱折りなどの軽作業、ハーバリウムや小物作りなどの手工芸を取り入れています。取材に伺った日は、花火の包装や変わり毛糸でがま口を編んでいる方がいました。オハナの特徴としては、「リラクゼーション室」が設けられていました。技術を習得しながらビジネスマナーや接客についても学び、就労につなげることを目指しています。就労移行ではビジネスマナーの習得、ハローワーク等への同行、通勤訓練や面接練習、健康アドバイス等、スムーズに就労に移行できるよう支援します。

◎建物は以前、ドラッグストアだったものを改装したため、どうしても電気の配線上、段差が出来てしまいましたが、車いすの方には特に配慮をしたいと思います。



土井さんは施設を立ち上げる前には高齢者施設や高次脳機能障害支援センターで働いておられました。「認知症のお年寄りとお話することが大好きなんです」と、目を輝かせてお話しされました。「障がいがあっても出来る事はたくさんあるはずですよ。“私が変わられる”ではなく、“変えてあげたい”と思っているのです。」とのこと。優しく寄り添う職員の方々と、楽しそうに作業をされている通所者の皆さんの、ゆったりとした時間が流れていました。

## お知らせ



### 「わたしのことファイル」の改訂版について

平成27年、当会の10周年記念事業として皆様にお届けした当事者情報ノート「わたしのことファイル」が内容をより分かりやすいものにし「私のことファイル」として改訂版を作成しました。そして、当会ホームページと茨城県高次脳機能障害支援センターのホームページに掲載されます。

このノートは当事者本人の様々な情報を、1冊のファイルにまとめられるように作成されています。忘れがちになる細かい情報や、経過年数からの変化など、日々の生活の中での気づきを書き留めておくことができる、そんな情報ノートです。そして、介護者亡き後には本人が困らないよう、必要な情報が詰まった「私のことがわかるファイル」となるでしょう。

ファイル形式ですので、ホームページから1ページずつ印刷して頂き、記録の追加や他の様々な情報の収録も出来ます。当事者ご本人、またはご家族と一緒に記入して活用していただき、本人と、医療・福祉・教育・行政・家庭を繋ぐ絆になることを願って作成されました。どうぞ、ご利用ください。

また、県の高次脳機能障害支援施策として新たに始まる支援拠点体制づくりに、当会からも繋がる支援の構築を願い「私のことファイル」300冊を高次脳機能障害支援センターに寄贈し、役立てて頂くことに致しました。尚、このファイルは茨城県福祉団体等支援事業費の助成により作成されます。

今回改訂するにあたっては、以下の方々から貴重なご意見やご助言を賜り、そして、編集作業を茨城県高次脳機能障害支援センター 相談支援コーディネーター 浅野様が担って下さいました。

- \*立川記念病院：加藤木 様・長岡 様
- \*ひまわり館：大竹 様
- \*木犀会くらしサポートセンター：長島 様
- \*木犀会ケアホームスマイルすみよし：西野 様
- \*高次脳機能障がい支援施設リライブ：佐久間 様



ご協力頂き、誠にありがとうございました。有意義に使わせて頂きます。感謝！！

### 《編集後記》

コロナ禍になってから行動半径がぐっと狭まり、家族会の行事も中止になる事が多くなりました。世の中の状況を見れば致し方ないこととはいえ、やはり寂しいです。そんな訳で今回の会報は、いつもよりページ数も少なくなっていました。

しかし、今回も取材でお会いした方々からたくさんのエネルギーをいただきました。「こんなコロナ禍の中で？」という疑問もありましたが、「オリパラ2020」からもたくさんの元気をもらったのも事実です。

病気と闘っている友人からの残暑見舞いに「今日も1日、楽しかったなあ・・・と思える毎日を過ごそうと思っています」とありました。世界の大変な人たちのことも思いながら、身近な人たちとの一日一日を大切にしていきたいです。(石)